

視野を広げて書くこと 補助資料「脚本を書くには」

学習日 月 日

一年 組 番 ()

1 脚本とは何か

演劇、映画、放送などの仕組み、舞台装置及び役者の動作、台詞などを記載した上演のもととなる本。台本、シナリオとも言う。

2 視点について知ろう

「視点を変えて書きかえよう」(教科書P138)を読んでまとめよう
文学的な文章の「語り手」について

「人称」について

作品の視点を変えるときに注意点

書きかえる活動を通して身に付く力とはどのようなものだろうか？

《身に付く力》

《活用場面》

3 脚本の基本的な書き方について知ろう

第一幕 放課後の教室で

ナレーター

「あれは、最終的にどの高校を受験するかという最終決定をしなければならなかった秋のことでした。クラスの中には、すんなり決まっている人もいれば、まだ迷っている人、進みたい道はあるのに家族と意見が合わない人、家族のことを考えると前に踏み出せない人、いろいろな人がいました。振り返ると、今でも、最終決定をしたあの出来事を思い出さずにはいられません。」

(ト書き)

場面は放課後。教室には明日香、俊夫、琴美をはじめクラスメイトたちがカバンを手に持ち、帰宅しようとしている。先生も書類をまとめている。

ト書きでは不十分な場合、個別の指示や説明をこのように示すことがあります。

先生

「立ち去りながら」みんな、明日の理科のワーク提出、忘れるなよ！」

生徒1

「カバンを持ちながら顔をしかめて」えーっ、理科のワークの提出日って明日だったっけ？」

生徒2

「うん。そっただけ。もう私、終わったよ。」

生徒1

「本当に？早いなあ。まったくやってないよ。」

(ト書き)

生徒たちは足早にそれぞれが帰宅する。教室には、明日香、俊夫、琴美の3人が残っている。

場面の表題

場面の展開が分かるように、表題がある場合は場面ごとに示します。「第一場面」や「第一幕」のように数字で示す場合もあります。

ナレーション

演劇や映画、放送などで、登場人物以外の語り手が内容等について解説することやその解説のことをナレーションといいます。脚本では、それまでの場面のあらすじや説明の必要な内容について語ります。登場人物の一人として一人称で語る場合と、第三者として三人称で語る場合があるので、だれの視点で書くのが把握しておく必要があります。

ナレーションをする人のことをナレーター(語り手)といいます。

台詞(せりふ)

役者が劇中の登場人物として述べる言葉のことを台詞(せりふ)といいます。会話なので、「」を付け、話し言葉で書きます。

・話し言葉…声に出して話す言葉
・書き言葉…手紙や文書で用いられる文字
で書かれた言葉
心の中の言葉も台詞やナレーションとして表現する場合があります。

ト書き

登場人物の動き、場面の状況、照明や音楽効果などの指定を台詞の間に書きます。